

赤井村 篤志家 田久彌七君 (四)

斯かる至誠の権化とも謂ふべき田久氏に天の下し給ふ試練の慘酷なるに我等は萬解の涙を渡かざるを得ざらばなり氏の長女三井子女子二十四歳は別項記載の如く昭和三年一月八日他郷警備第二尋常小學校教壇に於て俄然發病せられ醫藥効を奏せず春に僅か二十四歳にして殉職せられたる報をもちたし即時道路工事場なる山間に使をうけたる氏は此人生の大悲哀を物語る令嬢の逝去に對しても泰然自若として色をも變せず却つて豫てより倒るゝ迄つとめんと盟ひし辭を全ふしてその職に殉じたることを眞一戦が子たるに恥じず父は汝 死所を得たるを喜ぶとて言ひければ是れを聞ける多數の人々は寧ろ何れも暗涙にむせばざるものなかりし云ふかくて十四日間の必引も果て更ら 勇を勵し工事を督勵し巨額の財をなげうち勇猛しい身してその成功を神佛に祈りたる赤誠は遂に空しからずして昭和三年三月二十二日赤井村地内(尤も難所の稱ある澤道)延長二十六町四十三間を竣成し得たり時年五十一歳なり

りき然しながら天の試練はあまりにも苛酷なりきかねて竣工せりし新道路も數次の暴風雨にて大破小破の個所幾十ヶ所なるを知らず故に亦も是れが復舊等に時日を要し全部のしゆん工に永き歲月を要したるも亦是非なき次第なれば従つてその苦心の程察するにあまりあるべし

氏は此事業を計画してよりその年を閲すること(自大正十二年至昭和三年)前後六年の久しきに亘り殆んど獨力を以て巨額の資財を投じ不眠不休の活動を續けたる結果漸くにして初志を貫徹し昭和三年三月二十二日赤井村長赤井村長を初めとし各有志家と稱し初めて自動車を試運せしめ地方人をして驚異の眼を張らしめたるが今や馬車通行自由にして交通の安全は自然に頻繁を來し往來し間の僻村として顧みられざりし永戸村は木炭材木の製産地として天然の資源無盡蔵なるものありしにも拘らず徒らに交通の不便のみを嘆して天與の恩恵に浴する能はざりしも茲に計らず永井道路の改築は警城東線

小川郷驛との距離を短縮して生産品は遠日市場へ出荷せらるゝ好況を生み爲めに山間の寒村は大いに天源を開發して物質的の利潤を得ると共に一面精神的にも啓蒙せらるゝところ茲に初めて産活の安定せる農村は實現すると共に隣接せる赤井上小川村下小川村平窪村大野村及平町等の一町五ヶ村も直接間接に利便の波及する處甚大なり (終り)

暑中御伺ひ申上ります
御家族連れの御遊山にも
急を要する御商用にも
何卒弊店を御願致します

昭和タクシーへ
電話三四三番

★新發賣品★
治 藥 ラウタール 定價 拾圓
幾多の治淋藥中超越として偉効確確たるの自信を有するものは本劑あるのみ 是非一回の御試用を乞ふ

平町五丁目
一手販賣店 山野邊藥局

開業披露
口腔外科 齒科一般
夜間モ診療致します

日本大學 齒科醫學士 丹野 齒科醫院
平町白銀町
東北日日新聞社前
加藤丈夫事務所跡

緑したゝる初夏に
かるく涼じき丈夫な白靴
△大塚獨特品
舶來防水白靴 六圓
七圓

大塚支店 製造部
平町町 電話七〇二番

……的術藝し用應を光探の新最は影攝
すまし致製調を真寫……

中島寫真館
……てに法光探の特獨館弊は影撮間夜
んせよりあり變と影撮間晝……

正確+メガネ
無料検眼
各眼科院御用

町田平部計時眼鏡本根
七〇六電話部鏡時眼本根

専門 内科一般
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン

平町南町六五
川井内科診療所
電話七二二番
醫學士 川井 重之
女醫 川井 安子

暑い事ねい
あづきアイス氷
注文致しませうね
平町一丁目
藤 寅 へ

ミルクセイキ	金貳拾錢
アイスクリーム	金拾錢
アツキアイス	金五錢
氷水	四錢
れもん	八錢
あつき	拾錢
らむね	十錢
いちご	八錢
ぶどう	八錢
しら玉	十錢
玉子水	拾五錢

出前は迅速
御注文の電話
一四一番です

從來一俵壹圓貳拾錢ノ
東京瓦斯コーク
金九十五錢ニ
値下致シマス

★一家ノ經濟ハ
使へ馴れ、ばコークス程
經濟なものはありません
使用法は巻として申上ります

配達迅速 御注文は一俵より
警城炭礦販賣代理店
阿部石炭商店